

第2回アジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウム参加報告

渡辺真人

第2回アジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウム(2nd Asia-Pacific Geoparks Networks Symposium)は、ベトナムのハノイで7月18-20日に行われた。第1回は2007年にマレーシアランカウイ島で行われたが、今後は2年おき、奇数年の開催が予定されている。2013年は韓国済州島での開催が決定し、2015年開催地には日本の山陰海岸ジオパークが立候補している。

シンポジウムに先立って、事前に募集されていたジオパークフォトコンテストの入賞者発表、ジオガイド、説明板やパンフレットの作成などのテーマで講習会的なワークショップが行われた。

シンポジウムは5つのテーマに沿って世界各国からの講演、ポスター発表が行われた。中国、ベトナム、日本の参加者が多く、マレーシア、オーストラリア、韓国、インドネシアからも数人ずつの発表があった。あとに述べるドンヴァンカルストジオパークの立ち上げに協力したベルギーとフランスの研究者を含む、ヨーロッパからの参加者もあった。発表の多くは、GGN加盟ジオパークの活動例の報告、新たに加盟を希望する地域の紹介、教育・普及手法の紹介などである。

世界ジオパークネットワーク(GGN)関係者の発表では、ジオパークの質の向上が強く訴えられていたことが印象に残った。今年5月のユネスコ執行理事会でGGNとユネスコの関係の再検討にかかわる決議が採択されるなど、GGNとしてはユネスコとの関係強化を望んでいる。それを果たすためにはユネスコの活動としてふさわしい、自然遺産の保全と教育活動などにおいて質の高いジオパークが求められているのであろうと感じた。

20日から24日まで、昨年ベトナムで初めてGGNに加盟加盟したドンヴァンカルストジオパークと、世界遺産ハロン湾を巡る見学旅行が行われた。ドンヴァンカルストジオパークは素晴らしい景観を持つ地域であるが、ジオパークとして地形・地質をわかりやすく訪問者に見せる、地域の住民が自らジオパークを運営する、といった点についてはまだ発展途上と感じた。

以上

